

職場でも、地域でも全力投球。 「なくてはならない存在」が目標です。

井上 正

さん

創価大学経済学部経済学科卒業

(株)ノリタケボンデッドアブレーシブ 関連商品部

創価大学の建学の精神——
「人間教育の最高学府たれ」
「新しき大文化建設の揺籃たれ」
「人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ」
を胸にさまざまな場所で活躍する卒業生たち。
ゆたかな創造力と人間性をそなえる人材こそ、
創価教育が理想とする人間像です。

世界有数の陶磁器メーカーとして知られる(株)ノリタケカンパニーは、工業用研削砥石業界の日本最大手。工業用の研削砥石は生産材のため、一般の目に触れないので馴染みが薄い、自動車やパソコンなどの部品の製造には不可欠な工具だ。

一九八六年、創価大学経済学部を優秀な成績で卒業して、(株)ノリタケカンパニーに入社した井上正さんが配属されたのは、そうした研削・研磨砥石を扱う工業機材事業本部だった。仕事は営業だが、食器などの完成品を売るとの違い、砥石は顧客の加工ニーズに合わせて品質や形状を調整していく必要がある。

「セールスエンジニア的な仕事というか、技術的な知識が不可欠でした。といって僕は工学部出身ではないので、必死で勉強しました。『負けじ魂』です」
創価大学の卒業生の多くが口にする『負けじ魂』。『負けじ魂』というのは、全力でぶつかれば、どんな困難も乗り越えられるということだ。井上さんが大学の四年間で学んだ一番大き



なもの、この『負けじ魂』だったという。

「それとフロンティア・スピリットです。僕は十二期生で、大学はまだまだ草創期。法曹界や教育、金融関係に進む先輩は多くいました。でも僕は、商社などの一般企業に就職して、世界中を飛び回るような仕事をしたかと思っただけです」

大学の歴史をつくるのは自分たち、後輩たちのために新しい道を切り拓こう、そんな気持ちがあった。入社八年目に営業所

伝統を感じる「ノリタケの森」の前で

から本社の商品開発部に移り、上司や仲間と超精密研磨ブレードを開発、昨年末に社長賞を受けた。研磨ブレードを普及させるために、フィリピンや中国など、アジア各地を回った。

現在は、関連商品部という部署で、超精密ラップ関係やリサイクル環境商品などの自社製品から外注OEM製品まで、多岐にわたって様々な周辺機器商品を担当している。砥石リサイクルプロジェクトメンバーとなり、

特許出願もした。昨年十月からはグループリーダー(マネージャー)という立場を得て、後に続く人材を育てるという責任も加わった。

「自分で手掛けた商品の中から、将来の主力商品を生み育てることが、僕の夢です」

税理士事務所を営み、中部創友会(創価大同窓会)委員長の梅原一男さんは、「打たれ強い」というか、前向きな同窓生が多いですね。井上君もその一人」と語る。

どんな場所でもとことん頑張り抜く。そして「なくてはならない存在」となって社会に貢献する。少しでもお役に立てればと、忙しい仕事の合間をぬって住んでいるマンションの理事を引き受け、防火管理者の資格も取り、PTAや子ども会の役員をつとめる夫人ともども、地域ボランティアにも力を入れる。

「常にフロンティア・スピリットをもち、何事にも全力投球ですよ」

井上さんの夢への挑戦はこれからもつづく。

Soka Report | 創立者の軌跡 | 平和・文化・教育の世紀へ 8

「核兵器は地球上で最も手強い凶器です」。2006年11月30日、創価大学創立者・池田大作SGI(創価学会インタナショナル)会長は、ノーベル平和賞受賞者でIAEA(国際原子力機関)事務局長のエルバラダイ博士と会談を行い、「国家中心でなく人間中心の世界を」「心の力こそ偉大——人間革命の大道を」「核兵器なき世界は実現できる」「教育こそ未来を開くカギ」などと語った。2007年は、IAEA発足50周年、池田会長の恩師・戸田城聖創価学会第二代会長の「原水爆禁止宣言」から50年の意義深い年にあたる。



学生のための大学
創価大学
創価女子短期大学



〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215 http://www.soka.ac.jp/



いのうえ ただし(昭和三八年名古屋生まれ。昭和六一年創価大学経済学部経済学科卒業。同年(株)ノリタケカンパニーリミテッド入社。神奈川県藤沢営業所に勤務。平成六年名古屋本社に転属。商品開発部で研磨ブレードの開発・販売に携わる。平成十二年、平成十五年貿易部で海外普及に務める。平成十四年四月(株)ノリタケカンパニーリミテッドの分社化により(株)ノリタケボンデッドアブレーシブ勤務となる。